

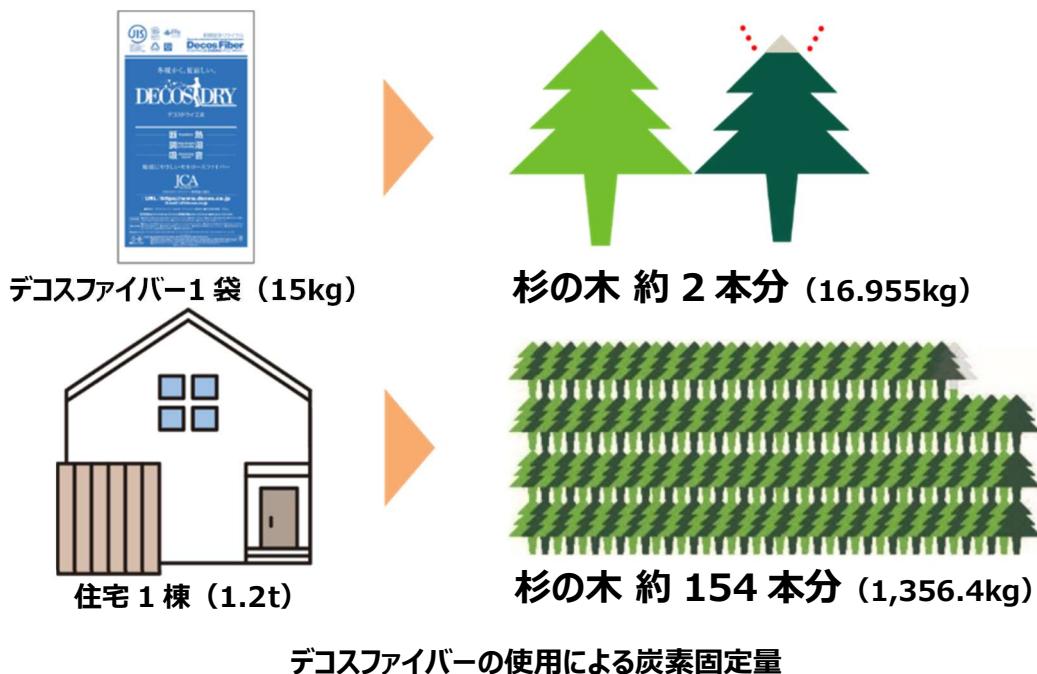
脱炭素時代の新たな一手「炭素の固定化」

国内初、デコスファイバーが建築用断熱材として炭素固定量を発表

住宅1棟分で杉の樹154本相当の二酸化炭素を吸収・固定

新聞紙を主原料としたセルロースファイバー断熱材「デコスファイバー」の製造・販売・施工を手がける株式会社デコス（本社：山口県下関市、代表取締役：安成信次）は、国内の建築用断熱材として初めて炭素固定量を算出、5月8日（木）に発表いたしました。

カーボンニュートラルの実現に向けてCO₂排出量の削減が求められるなか、「大気中の二酸化炭素を閉じ込める＝炭素の固定化」という新たな観点に注目が集まっています。デコスファイバーを住宅1棟あたり1.2トン使用することで、40年生の杉154.13本が1年間に固定するCO₂量に相当することが明らかになりました。



建築業界でもCO₂排出量の「見える化」が加速

国が掲げる「2050年カーボンニュートラル」に伴い、住宅・建築分野でも脱炭素化の取り組みが進んでいます。エアコンや照明など省エネ設備の導入、断熱性能の向上といった運用段階での省エネ化に加え、「建設時のCO₂排出量」削減への意識も高まっています。

木造化や国産材利用などの構法に加え、製造から廃棄までのライフサイクルでCO₂排出の少ない環境性能の高い建材が注目されています。

当社では2011年に、建築用断熱材として国内で初めてCFP（カーボンフットプリント）認定を取得し、CO₂排出量を数値化しており、またグラスウール24Kと比較し、建設時のCO₂排出量を約56%削減できる実績も公表しています。

今回、新たなステップとして「炭素の固定化」量も公表、脱炭素化に向けた次の一手として、その認知拡大を図ります。



炭素を「削減」から「固定」へ——“カーボンストック”という新しい考え方

「炭素の固定化」とは、大気中の CO₂を何らかの形で大気に戻さずに保持する取り組みで、脱炭素社会に向けた効果的な手段とされています。植物は光合成により二酸化炭素を吸収し、炭素として蓄える役割を果たしています。同様に、木材や紙製品も炭素を固定化する能力を持ちます。2021年に林野庁が制定した「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示ガイドライン」では、都市部の建物を“第 2 の森林”と捉える動きが示されました。

デコスファイバーは再生新聞紙を原料の約 80%に使用しており、木材由来の炭素固定材としての役割を担っています。紙製品の炭素含有率は 35%とされ、デコスファイバー 1 袋（15kg）で 16.955kg の炭素固定が可能、住宅 1 棟あたりでは 1,356.4kg の固定量、40 年生杉の木 154.13 本分の年間 CO₂固定量に相当します。今後も、木造建築の推進とともに、断熱材による炭素固定の可能性を提案してまいります。

脱炭素に向けた取組について詳しくはこちら … <https://www.decos.co.jp/datsutanso>

デコスファイバーとは…

新聞紙を主原料とする綿状の木質纖維系断熱材（セルロースファイバー断熱材）です。木質纖維系断熱材は、断熱性だけでなく、調湿性・吸音性・防火性などにも優れています。熱（溶解・乾燥）、水（洗浄・冷却）なども一切を使用せず、電気エネルギーのみを用いて製造され、他の断熱材に比べ製造時のエネルギー消費量が圧倒的に低いのが特長です。中でも当社のデコスファイバーは製造時 CO₂ 排出量国内最小、国内の建築用断熱材で唯一エコリーフを取得するなど、環境性能の高い断熱材です。



＜会社概要＞

企業名	：株式会社デコス	設立	：1974 年 8 月 30 日
代表者	：代表取締役 安成信次	資本金	：30,000,000 円
本社所在地	：山口県下関市菊川町田部 155-7	従業員数	：25 名
事業内容	：断熱材製造販売・施工、FC 事業		
ホームページ	： https://www.decos.co.jp/		

【報道関係者 お問い合わせ】

デコス 広報事務局

担当：川崎（090-2401-4914） 福士（080-6538-6292）

E-mail：pr@netamoto.co.jp TEL：03-5411-0066 FAX：03-3401-7788